

2015年11月19日

株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ

ブライダル総研 恋愛・婚活・結婚調査2015

- ◆20代独身男性、交際経験がない人は41.9%
- ◆交際相手のうち、結婚したいと思えた人は2人未満
- ◆既婚者は「独身時代の想像」よりも結婚は良いと感じている

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋)が運営するリクルートブライダル総研では、恋愛、婚活、結婚について詳細を把握するために、「恋愛・婚活・結婚調査2015」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<恋愛>.....P3、4

20代独身男性のうち交際経験がない人が約4割。恋人がいる人は積極的に行動している

- ✓ 全体的に、独身女性より独身男性の方が恋人がいる人の割合が低く、交際経験がない人の割合が高い。特に、20代男性の交際経験がない人の割合が高い(41.9%)。
- ✓ 「恋人がいる」「恋人がいない(交際経験有)」「恋人がいない(交際経験無)」の順で告白した平均人数が多く、恋人の有無は告白した人数の多さと関係している。

<婚活>.....P5、6

結婚に向けて意識的に行動することは、良かった点の方が割合が高い

- ✓ 結婚に向けて意識的に行動している人の良かった点と悪かった点を比べてみると、全体的に良かった点の方が割合が高い。
- ✓ 結婚支援サービスを使う「婚活」へのイメージは、「結婚に対して積極的・行動的(全体:56.0%)」「頑張っていてすごい(全体:40.4%)」「しなくても結婚できる(全体:40.3%)」となっている。

<結婚>.....P7~9

交際相手のうち、結婚したいと思えた人は2人未満。また、結婚には「覚悟と決断」が大事だと思う既婚者が最も多い。さらに既婚者は、「独身時代の想像」よりも「現実の結婚生活」の方が良いと感じている

- ✓ これまでに付き合った平均人数は男女とも4人台(男性:4.5人、女性:4.2人)、そのうち結婚したいと思った平均人数は男女とも2人未満(男性:1.8人、女性:1.5人)であった。
- ✓ 結婚のためには「覚悟と決断」が大事だと思う既婚者が最も多い(全体:66.6%)。
- ✓ 「良いところ、幸せなところ」の方が「悪いところ、不幸なところ」よりも、独身時の想像と現実との差が大きく、想像よりも結婚が良かったと感じている。

- ◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、「恋愛・婚活・結婚調査2015(リクルートブライダル総研調べ)」と明記いただきますようお願い申し上げます。
- ◆ 「恋愛・婚活・結婚調査2015」の詳細は、下記広報担当までご連絡ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

【調査方法】

インターネットによるアンケート調査

【調査期間】

2015年9月25日(金)～2015年9月28日(月)

【調査対象】

全国の20～69歳の男女
既婚者・独身者問わず

【回収サンプル数】 5000サンプル

本調査では、性・年代・未既婚別に定数にてサンプルを回収し、集計の際に実際の性・年代・未既婚別の人口構成に合わせるために、サンプルに重みづけをおこなった(ウェイトバック集計)

※既婚者とは、初婚者および再婚者も含む

※独身者とは、結婚経験がない独身者および離別、死別者(今は結婚していない)も含む

回収サンプル構成

		20代	30代	40代	50代	60代
既婚者	男性	250	250	250	250	250
	女性	250	250	250	250	250
独身者	男性	250	250	250	250	250
	女性	250	250	250	250	250

合計：5000サンプル



本調査対象者を抽出するためにおこなったスクリーニング調査に対して「平成27年総務省統計局人口推計」の「男女年代別人口」および「平成22年総務省統計局国勢調査」の「男女年代別未既婚率」を用いてウェイトバック補正をおこない、そのスクリーニング調査より算出した各セルの構成比をもとに、本調査対象者(5000サンプル)の補正をおこなった

ウェイトバック補正後のサンプル構成

		20代	30代	40代	50代	60代
既婚者	男性	67	279	398	365	455
	女性	90	316	422	380	432
独身者	男性	333	219	182	115	98
	女性	290	165	143	101	152

合計：5000サンプル

※ウェイトバックによる補正をおこなっているため、補正後サンプル数に小数点が発生していますが、四捨五入して整数表記をしています。そのため、サンプル数の合計と誤差が生じておりますが、ご了承ください。

◆人口構成比算出元データ

・平成27年総務省統計局人口推計より

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

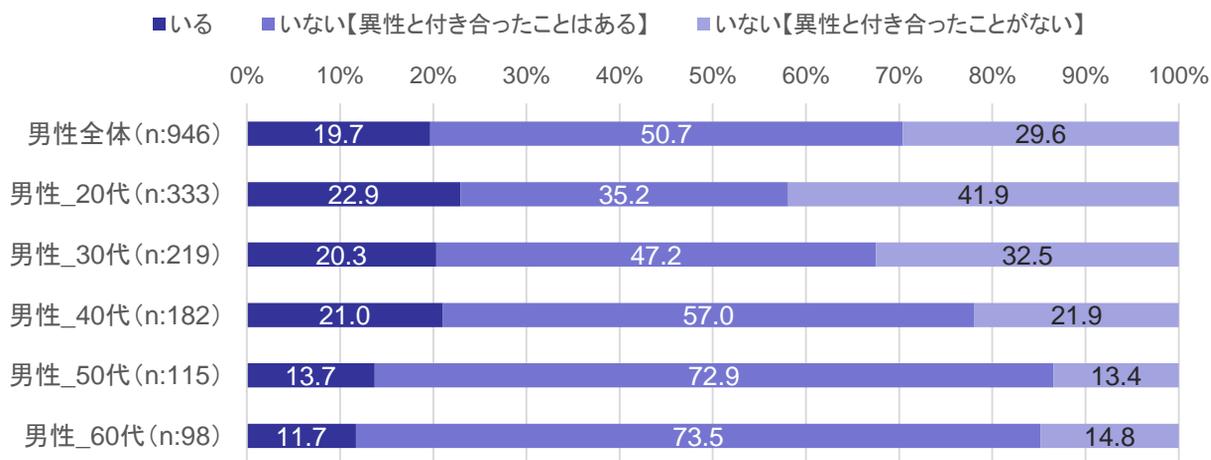
・平成22年総務省統計局国勢調査より

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>

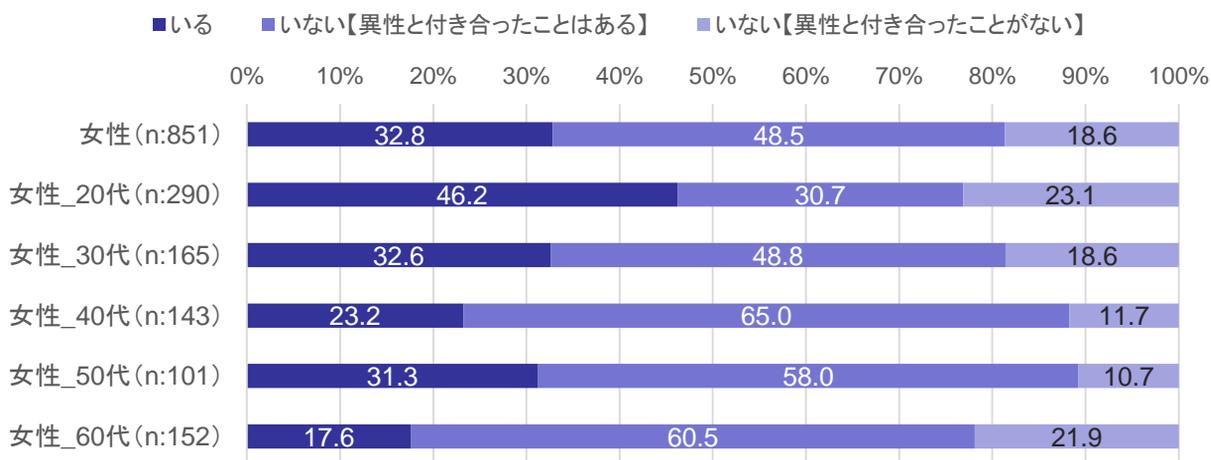
全体的に、独身女性より独身男性の方が恋人がいる人の割合が低く(男性:19.7%、女性:32.8%)、交際経験がない人の割合が高い(男性:29.6%、女性:18.6%)。特に、20代男性の交際経験がない人の割合が高い(41.9%)。

■恋人がいる人の割合(独身者/単一回答)

男性



女性

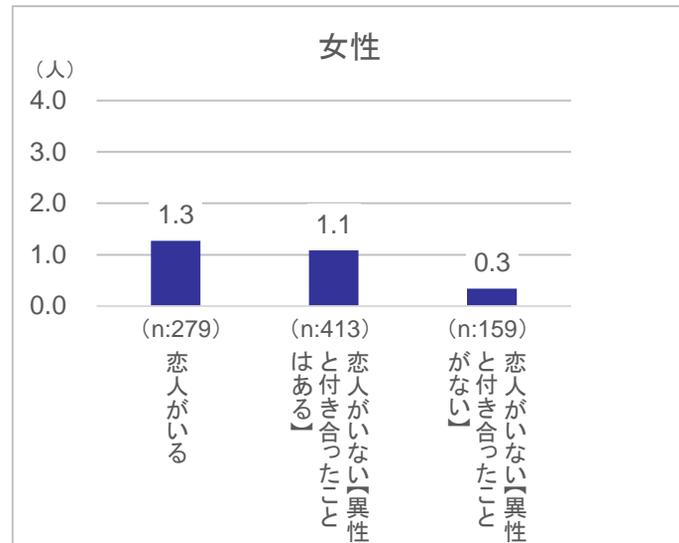
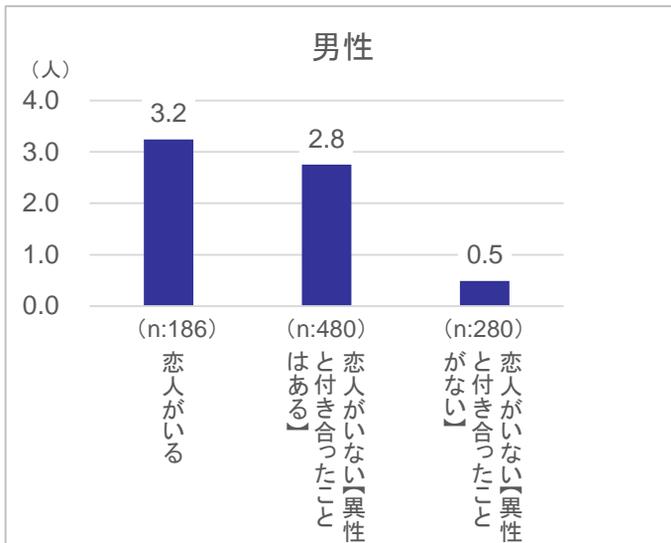


※n数は、ウエイトバック後のn数

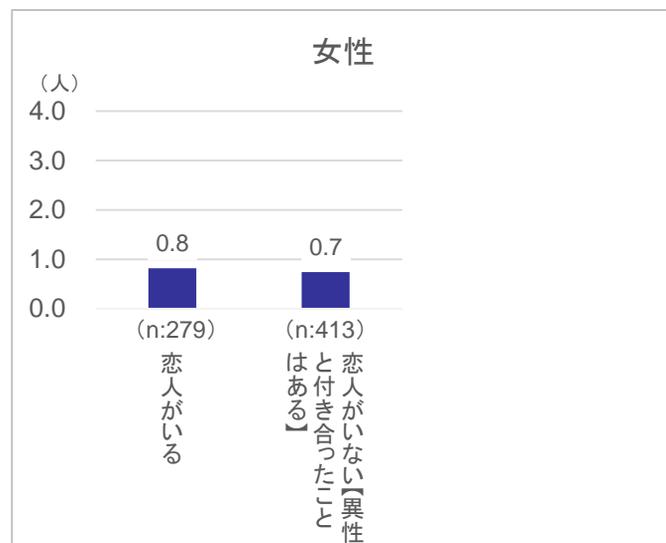
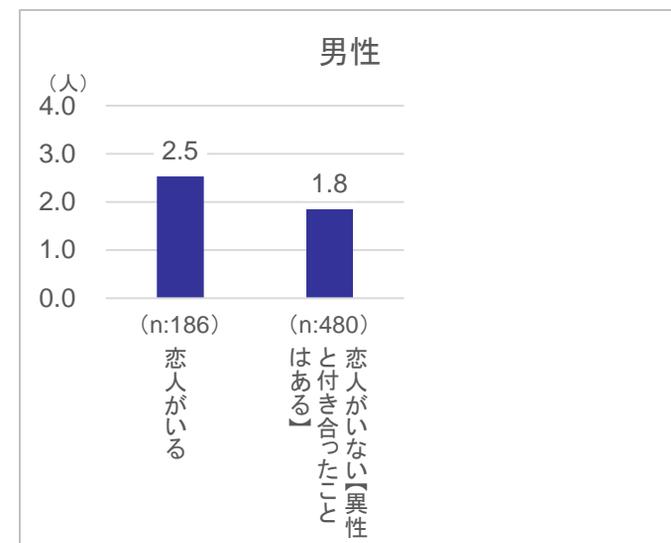
恋人有無別にみる告白した人数と成功した数

告白した平均人数をみると、「恋人がいる」「恋人がいない(交際経験有)」「恋人がいない(交際経験無)」の順で多い。
恋人有無は告白した人数の多さと関係している。

告白した平均人数(独身者/単一回答)



告白した人のうち、OKだった平均人数(独身者のうち交際経験がある人/単一回答)

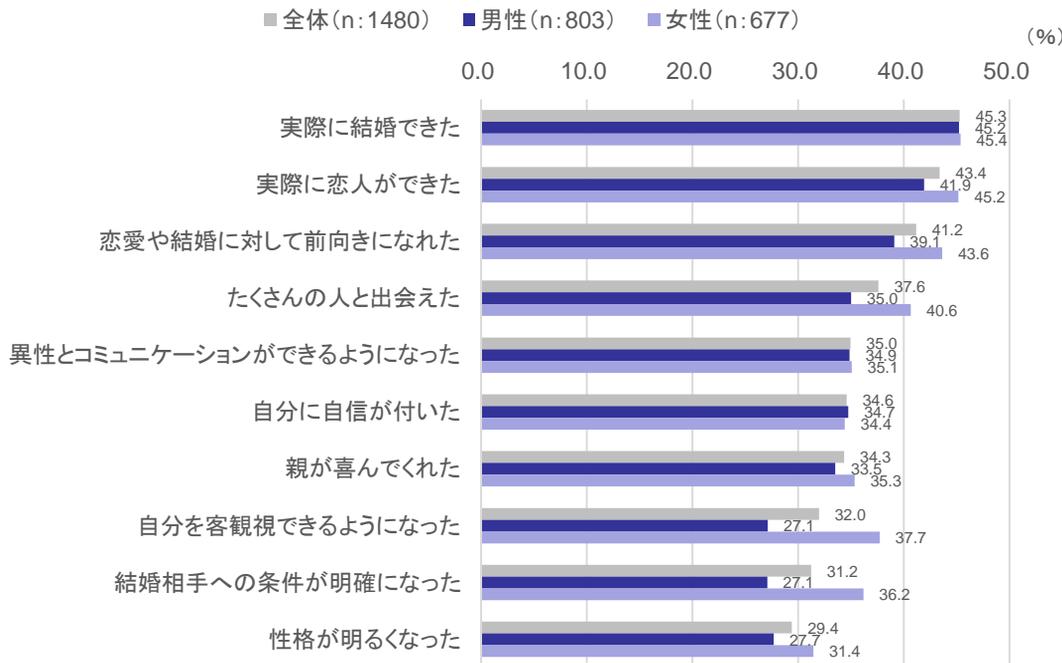


※n数は、ウエイトバック後のn数

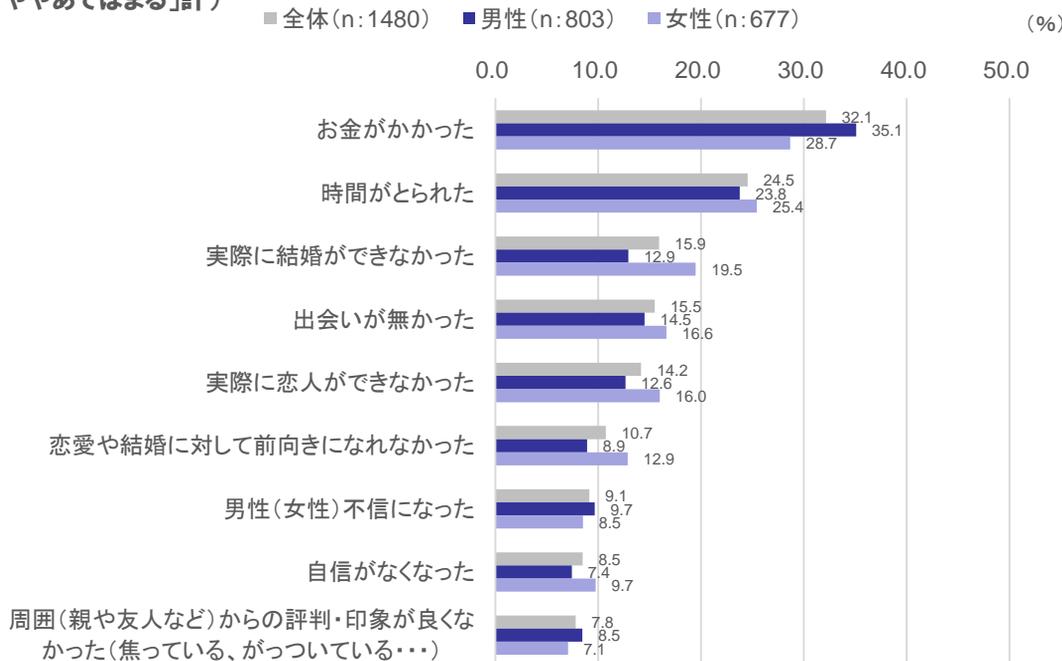
結婚に向けて意識的に行動することの効果

結婚に向けて意識的に行動して良かったことは、「実際に結婚できた(全体:45.3%)」、「実際に恋人ができた(全体:43.4%)」、「恋愛や結婚に対して前向きになれた(全体:41.2%)」となった。
一方、悪かったことは、「お金がかかった(全体:32.1%)」、「時間がとられた(全体:24.5%)」、「実際に結婚できなかった(全体:15.9%)」となった。
比べてみると、全体的に悪かった点より良かった点の方が、割合が高い。

■結婚に向けて意識的に行動して良かったこと(結婚に向けて意識的に行動をしている(していた)人/それぞれ単一回答/「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」計)



■結婚に向けて意識的に行動して悪かったこと(結婚に向けて意識的に行動をしている(していた)人/それぞれ単一回答/「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」計)



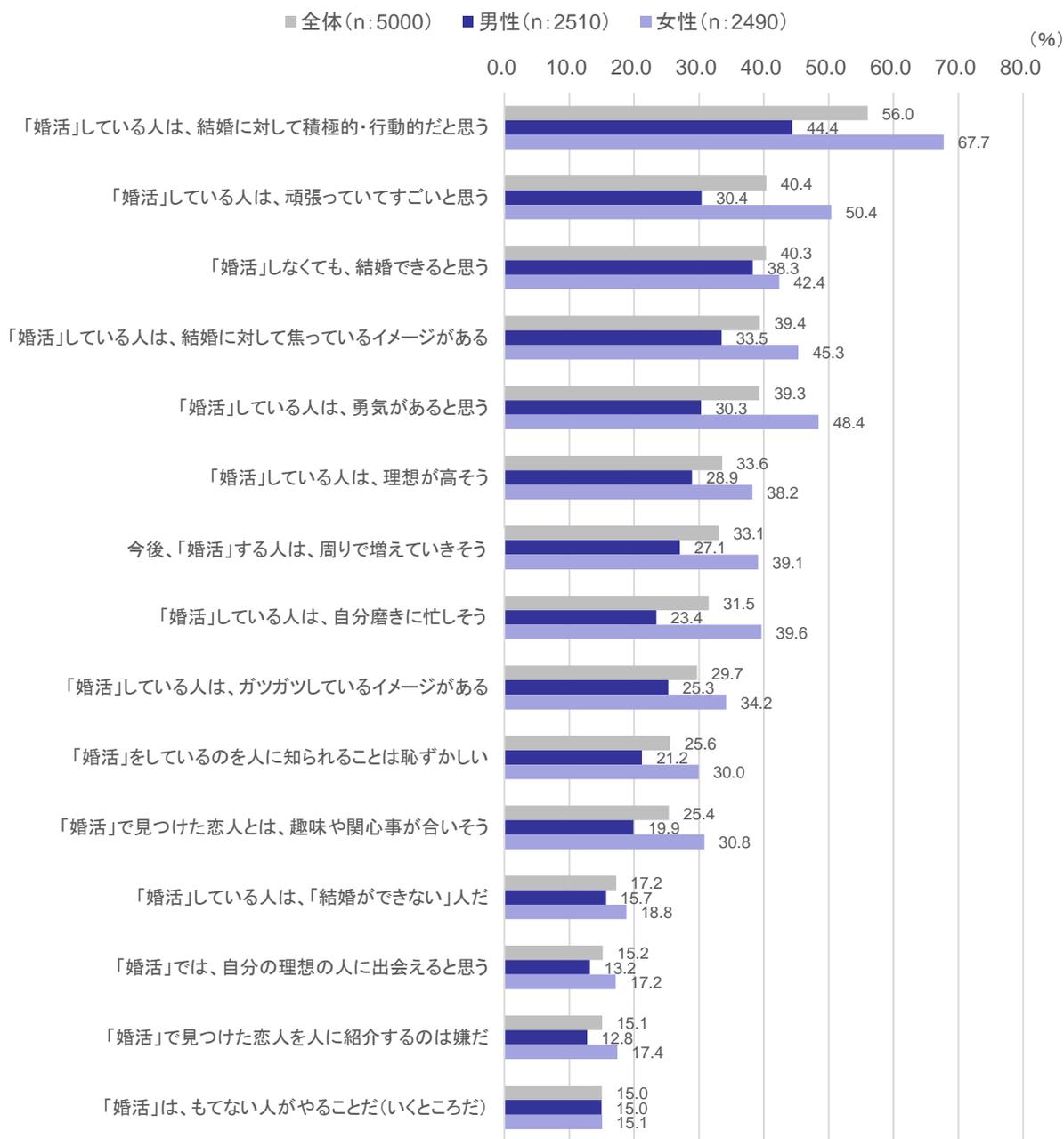
※全体で降順ソート

※n数は、ウエイトバック後のn数

結婚支援サービスを使う「婚活」へのイメージは、「結婚に対して積極的・行動的(全体:56.0%)」「頑張っていてすごい(全体:40.4%)」「しなくても結婚できる(全体:40.3%)」となっている。

■結婚支援サービスを使う「婚活」へのイメージ(全体/それぞれ単一回答/「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」計)

※ここでの「婚活」とは、結婚相手を見つけるために、結婚相談所、婚活(恋活)サイト・アプリ、婚活パーティ・イベントなどの結婚支援サービスを利用することを指します。

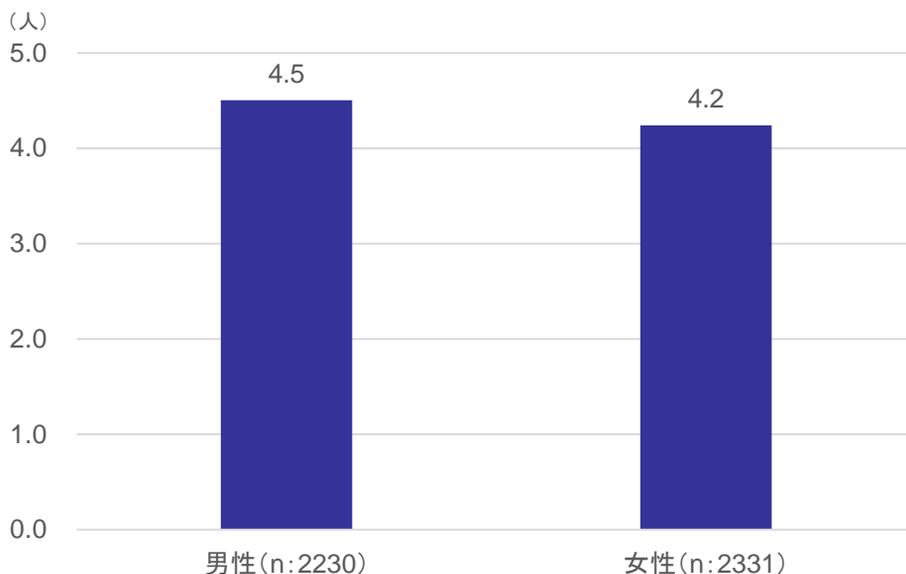


※全体で降順ソート
※n数は、ウエイトバック後のn数

これまでに付き合った平均人数は男女とも4人台(男性:4.5人、女性:4.2人)、そのうち結婚したいと思った平均人数は男女とも2人未満(男性:1.8人、女性:1.5人)であった。

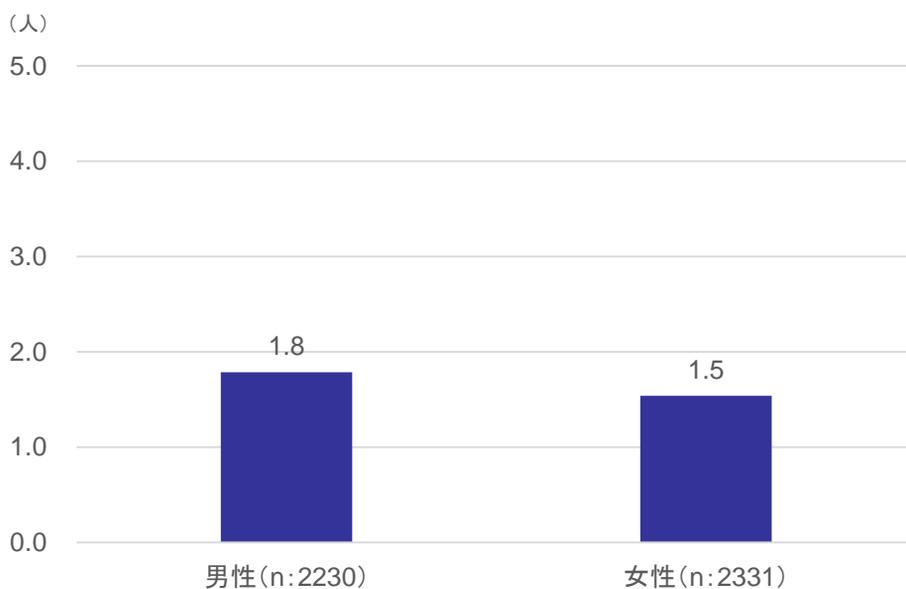
■これまでの平均交際人数(交際経験がある人/単一回答)

※結婚経験がある方は配偶者も含めて記入



■これまでに付き合った人のうち、結婚したいと思った平均人数(交際経験がある人/単一回答)

※結婚経験がある方は配偶者も含めて記入



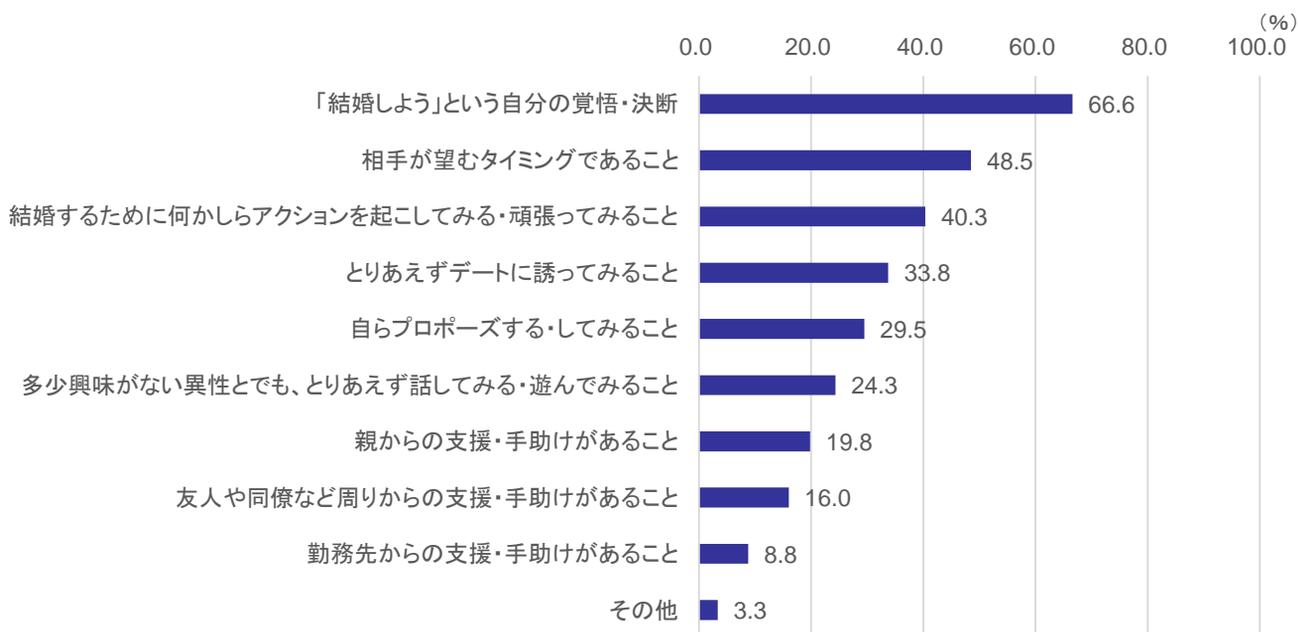
※n数は、ウエイトバック後のn数

結婚に向けて大事だと思ったこと(既婚者)

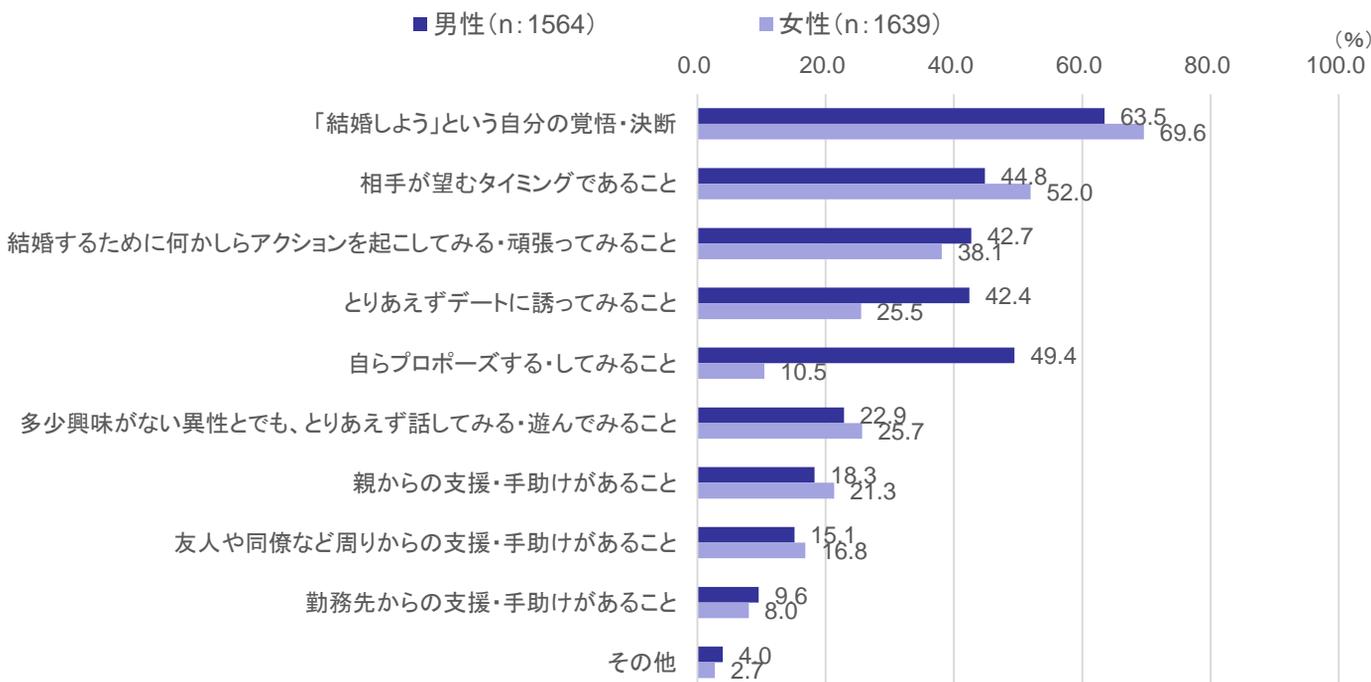
結婚のためには「覚悟と決断」が大事だと思う既婚者が最も多い(全体:66.6%)。

■結婚するために大事だったと思うポイント(既婚者/それぞれ単一回答/「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」計)

全体(n:3203)



男女別



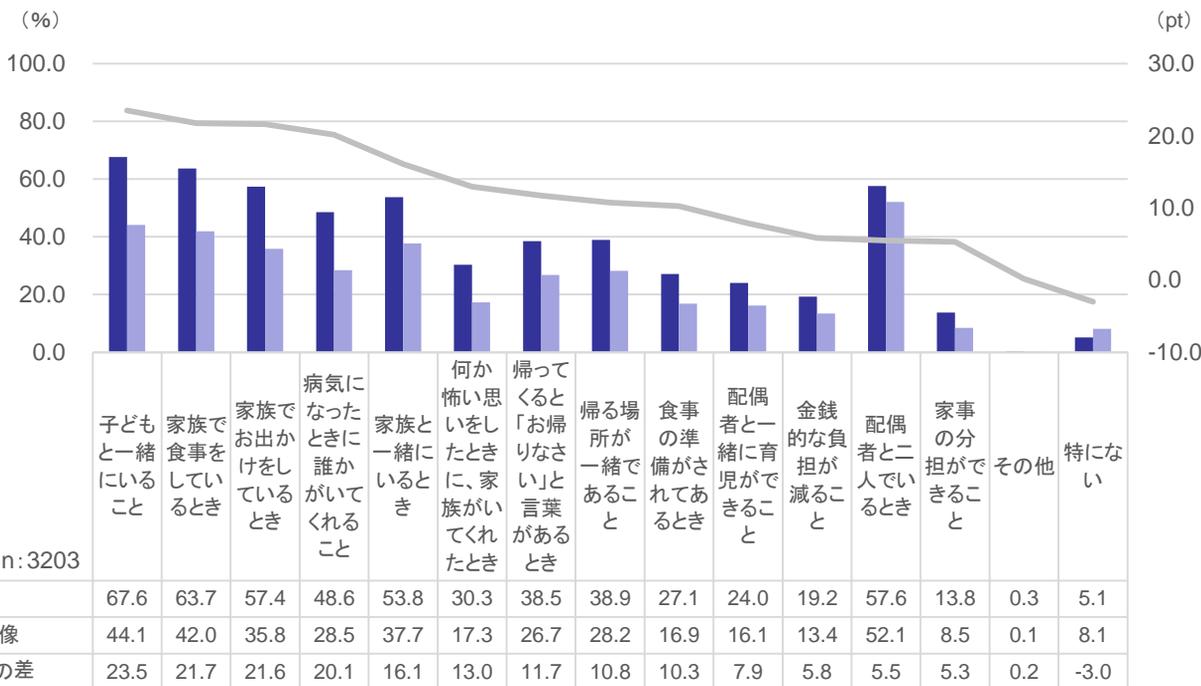
※全体で降順ソート

※n数は、ウエイトバック後のn数

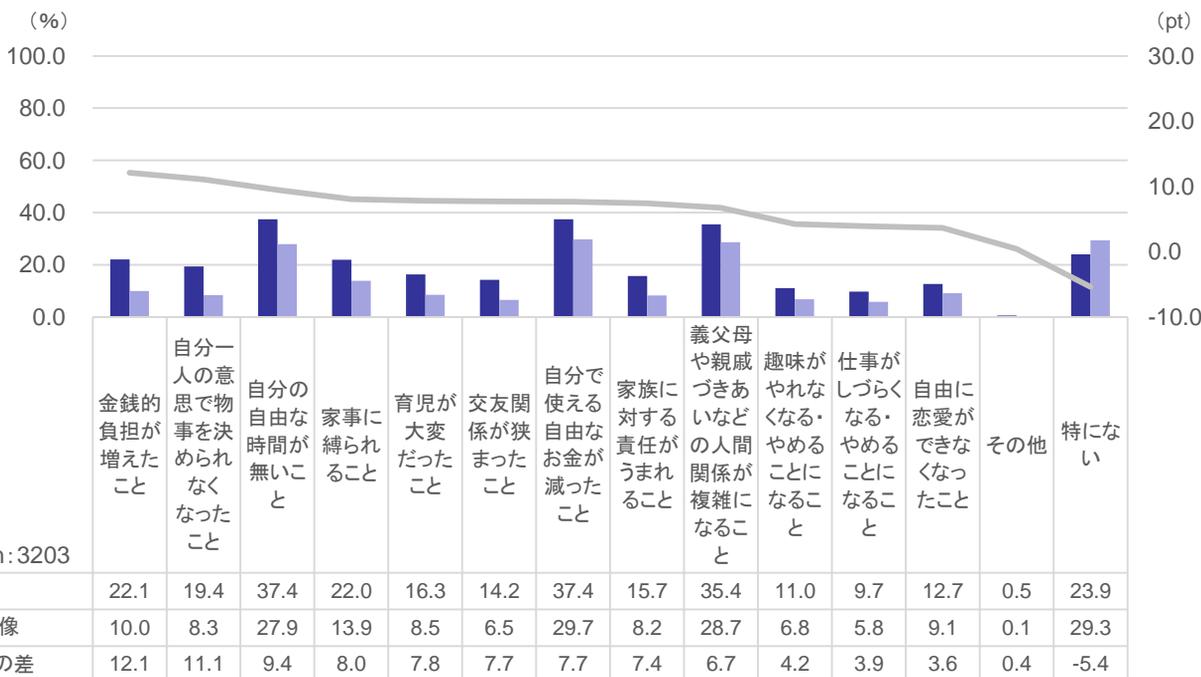
結婚する前の想像と結婚後の現実のギャップ(既婚者)

「結婚の良いところ、幸せなところ」について、独身時代の想像と結婚後の現実を比較すると、特に家族との関わりの項目が現実の方が高くなる(「子どもと一緒にいること」:23.5ポイント、「家族で食事をしているとき」:21.7ポイント)。一方、「悪いところ、不幸なところ」は、金銭的負担と自分が判断できないことが現実の方が高くなる(「金銭的負担が増えたこと」:12.1ポイント、「自分一人の意思で物事を決められなくなったこと」:11.1ポイント)。「良いところ、幸せなところ」の方が「悪いところ、不幸なところ」よりも、独身時の想像と現実との差が大きく、想像よりも結婚が良かったと感じている。

■結婚の良いところ、幸せなところ(既婚者/複数回答)



■結婚の悪いところ、不幸なところ(既婚者/複数回答)



※現実と想像の差で降順ソート
※n数は、ウエイトバック後のn数